

箕蚊屋中学校区の取組

○中学校区のめざす子ども像

「互いに関わり合い、学び合う、心身ともにたくましい子ども」

1 はじめに

本校区は、2つの市村にまたがる校区であるが、以前から人権教育を柱として小中学校の連携がとられてきた校区である。本校区は文部科学省人権教育研究指定を受け、本年度11月には米子市中学校区人権教育研究発表会を行った。ここ2年間は、「箕蚊屋コミュニティにおける人権尊重社会の基礎づくり～互いに関わり合い学び合う子どもの育成を通して～」の研究主題を柱として小中一貫教育を行ってきた。箕蚊屋中学校区で育つ子どもたちにとって、中学校を卒業するまでの15年間は、将来この箕蚊屋教育コミュニティに人権尊重社会を築いていく基礎づくりの期間である。そしてその基礎は、「関わり合い」「学び合い」といった子どもたち同士のつながり合う営みを通してこそ実現するものである。このような考えから、「関わり合い、学び合いを通して、心身ともにたくましい子ども」をめざす子ども像とした。

米子市の発表会には、日吉津小学校は含まれていないが、小中学校で一貫した教育活動を展開するために、日吉津小学校も含めた4校での担当者会を開き、歩調を合わせながら進めていった。校区の研修会や校区の児童生徒対象のアンケート、PTAで行ったアンケートも4校で行っている。



2 中学校区独自分野（人権教育）

(1) 部会の開催

人権教育は、箕蚊屋中学校区教育の基盤となるもので、4校の人権教育主任は、少なくとも月1回は集まり、本校区の人権教育の方向性を打ち出している。箕蚊屋中学校区15年プラン「育てたい資質・能力」は、義務教育の出口である15歳のあるべき姿をイメージしたもので、「心の教育・生徒指導」「健康教育」「学力向上」「特別支援教育」の4分野の実践活動の柱になっている。

(2) 実践活動

平成26年度に、校区児童生徒を対象に「自己他者肯定感テスト」「自尊感情5領域テスト」「人権意識アンケート」を実施した。その結果、本校区児童生徒の多くが自らの学習状況に対して自信が持てず、その結果として自尊感情を低下させているということが明らかとなった。また、学習に対する苦手意識の背景には、学校や家庭生活における基本的生活習慣の確立が不十分であるという生活上の課題が見え隠れし、その結果として、学習を支える学びの素地が十分に培われていないことが原因であると考えた。そこで、学校・家庭における基本的生活習慣の確立を通して学びの素地を整え、学びの素地を礎に「学び合い」を中心とした授業改善や基礎学力定着に



校区の全体研修会（8月）

向けた取組等を通して、児童生徒の学力や学習意欲を高めていくことにした。

また、本校区では、毎年5月に校区人権同和教育推進協議会総会、8月に校区人権同和教育推進協議会全体研修会を開催し、幼稚園、保育園（所）、小学校、中学校の全教職員が一堂に会し、校区教育の方向性確認し、研修を行い、夏には保育園（所）の公開保育、毎年秋には小中学校の1校が人権学習の公開授業を行っている。

3 心の教育・生徒指導

(1) 部会の開催

校区小中一貫協議会の日に必要に応じて部会を開催し、校区の共通した取組について話し合いを持った。さらに、そのうち4回は、生徒理解のために、関係諸機関（米子市健康対策課、日吉津村福祉保健課、米子児童相談所、米子市スクールソーシャルワーカー）も交えた情報交換会を行った。

(2) 小中交流あいさつ運動

小中一貫の取組として、今年度は生徒会による小学校での「小中交流あいさつ運動」を実施した。中学生（生徒会執行部の生徒）が小学校に出向いて、朝の登校時間を利用して玄関先で小学生と一緒に大きな声でさわやかなあいさつを交わすようにした。中学生が率先してあいさつをすることにより、異年齢に向けても自ら関わる力を育て、また、地域で活動することにより、豊かな心を育みながら発信力を高めることができた。それぞれの小学校、中学校独自の取組としても、代表委員会や生徒会執行部などを中心に毎日あいさつ運動を行っているが、交流あいさつ運動を行うことで、4月と比べるとあいさつに対する意識が高まってきており、気持ちのよいあいさつを耳にする機会が多くなった。それらの成果もあり、あいさつを通じた人間関係づくりは、少しずつではあるが、着実に生徒・児童に広がっている。



小中交流あいさつ運動

(3) 小学校・中学校交流

中学校の生徒指導主事が各小学校に長期休業の前に赴き、夏休みや冬休みの生活について小学生に話をした。中学生に対して伝えた生徒指導の内容と同じもので、小学生はとても真剣な表情で話を聞いていた。

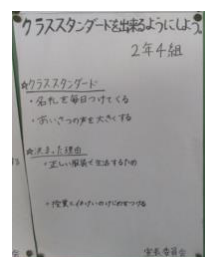
今年度は、米子市の「つながる米子市児童会・生徒会楽しく安心な学校づくりプロジェクト」の一環として、児童会と生徒会の代表が集まって学校課題を協議する「リーダー研」を実施した。また、毎年2月には、

6年生児童に向けて中学生が中学校生活についてのオリエンテーションを行う小中交流会を生徒会主催で開催している。これらの交流は、中1ギャップという課題の克服につながっていると感じている。



(4) 「生活のきまり」に基づく指導

小学校でも中学校でも、「生活のきまり」「よいこのきまり」として学校生活のきまりを児童生徒に提示し、みんなで守り、安心できる学習環境、生活環境をつくろうと働きかけた。各学校とも、児童会や生徒会が中心となって規範意識を



クラススタンダード

高めようと全校児童生徒に呼びかけた。

箕蚊屋小学校では、教師の指導の手引ともなる「スクールスタンダード」を活用して、基本的な生活習慣の定着に向けて指導の重点化と共通化を図った。また、伯仙小学校では、時間管理について重点化した指導を行い、中学校では、生活や学習規範を自律的に定め、振り返る「マイスタンダード」「クラススタンダード」の取組を行っている。

(5) 安心して過ごせる校内環境づくり

小中が共通した取組として、校内の掲示スペースに人権（あるいは人権学習）に関するコーナーを設置している。

体育祭や文化祭、学習発表会などの学校行事、修学旅行や宿泊学習などの学年行事、あるいは、総合的な学習の時間や日々の関わりなどから、人権に関する活動に視点を当てて掲示した。人との出会いや児童生徒同士の関わりの中から、相手のことを考えたり、自分の行動をよりよく変えていったりするなど、人間関係をより深めていくための具体的な行動について、児童生徒が考えることができた。今後は、掲示するだけでなく次の学年へ伝えることによって、より広がりをもたせていきたい。



学年学校行事後の振り返りやメッセージ

4 健康教育

(1) 部会の開催

校区小中一貫協議会の日に必要に応じて部会を開催し、校区の特色として、児童生徒のメディア接触時間が長く、そのことが基本的な生活習慣の乱れや、家族で過ごす時間の減少、さらには様々なトラブルの要因となっていること、本年度も継続してノーメディア運動の取組を継続していくことを確認した。また、同一講師による、性教育講演会を小中学校で実施することも確認した。

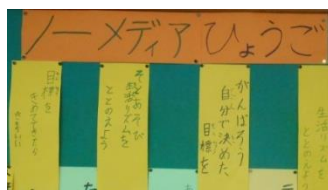
(2) ノーメディア運動

本中学校区では、以前から、保幼小中が連携してノーメディア運動に取り組んでいる。学期に1回、中学校の定期テスト前の1週間を運動週間として、校区内のすべての保育園（所）・幼稚園と小中学校が歩調を揃えて運動を展開している。各校で呼び方は異なるが、それぞれのネーミングでPTAと一体となって取組を進めている。特に昨年度から本年度にかけては、校区の3小学校と中学校のPTAと協力し、子どもたちの食生活、メディア接触、親子で過ごす時間などについてアンケートを行い、それに基づいて、保護者に向けた情報紙を3回発行した。

以前は、各校園でバラバラに取り組んでいたが、兄弟姉妹で運動に取り組む期間が異なると

効果が上がりにくいことから、中学校区内では期間を統一して行うようにした。

中学校では、「ノーメディアデー」と「家庭学習の日」の取組を工夫し、生徒が自分自身でチャ



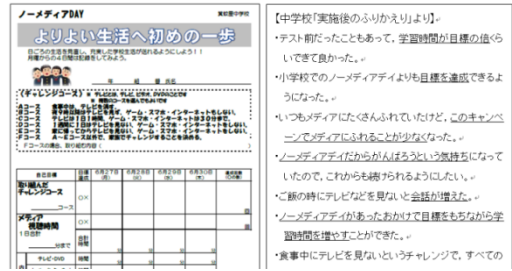
ノーメディア標語



PTA機関誌

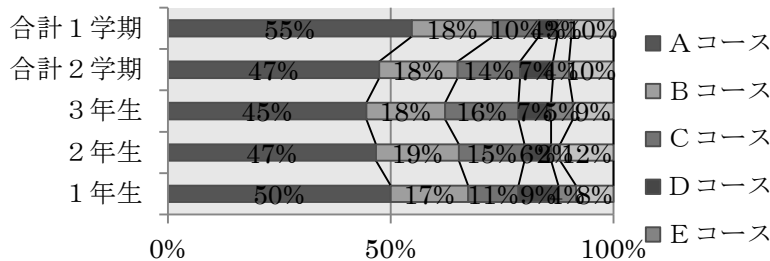
レンジするコースを決め、家庭学習と生活習慣を関連付けて見直すよう取り組んだ。また、1学期には外部講師を招き、メディアとのより良い付き合い方についての講演会を開催し、生徒の意識向上を図った。

小学校のノーメディア週間では、テレビの見方やゲームの時間について、児童が家族と相談しながらコースを決めて行い、実施後は、通信に児童や保護者の思いや結果、取組のねらいなどを載せて啓発を図っている。また、児童会もノーメディア週間に合わせて活動し、全校へ呼びかけた。



箕蚊屋中学校ノーメディアチャレンジカード

平成28年度2学期ノーメディアDAY調査結果 取り組んだチャレンジコース（箕蚊屋中学校）



- Aコース：食事中はテレビを消す。
- Bコース：夜9時以降はテレビを見ず、ゲーム・スマホ・インターネットもしない。
- Cコース：テレビは1日1時間、ゲーム・スマホ・インターネットは30分まで。
- Dコース：1週間に1日はテレビを見ない、ゲーム・スマホ・インターネットをしない。
- Eコース：家に帰ってからテレビは見ない、ゲーム・スマホ・インターネットをしない。
- Fコース：A～Eコース以外で家族でチャレンジすることを決める。

5 学力向上

(1) 部会の開催

本校区の児童生徒は、意欲的に学習に取り組むグループや学級での話し合い活動に生き生きと取り組むことができる。しかしながら全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、基礎的・基本的な知識が定着していない児童生徒や、困難な課題に粘り強く取り組んだり、自ら進んで探求的な課題に取り組んだりしようとする児童生徒は多くない。また、家庭学習の仕方が身につけていないことも問題である。月に1度の割合で部会を開き、授業改善と基礎的学習内容の定着の2つの柱で取組を進めてきた。

(2) 授業改善

以前から「ユニバーサルデザインの授業づくり」を目指して授業改善を進めてきたが、本年度はそれを基盤として、より学習集団や個に応じた学習が支援される人権的な視点に沿った授業になるように「人権が尊重される授業のチェックリスト」を作成し、授

自己存在感	①	授業に参加している実感	学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫ができていたか。
	②	必要とされている実感	お互いの発言を最後まで聞く習慣や誤答を大切にすることが身につけているか。
	③	教師の姿勢	承認・賞賛・はげましの言葉をかけ、個に応じた改善課題や改善方法を示しているか。
共感的人間関係	④	受け入れられている雰囲気	一人一人が自由に発言できる雰囲気作りができてきているか。
	⑤	学び合う仲間の実感	ペア学習グループ学習で他者の発言や作品のよさに気づき、学ぼうとしているか。
自己選択・決定	⑥	学習課題や計画	発達段階に応じて、学習の見直しやめあてをもって学習を進められているか。
	⑦	学習教材	生徒の実態に合わせて、興味関心を高める教材教具を工夫したり、選択させたりしているか。
	⑧	学習方法	a) 図や写真など興味のある資料や理解を促すための視覚支援を選択しているか。 b) タイマー等により時間管理がされ、時間を守って学習がされているか。 c) 児童に合わせて見やすい板書の工夫(チョークの色、カード、ミニボード、カードの工夫)がされているか。
	⑨	表現方法	考えをまとめるために多様なノートの工夫がされているか。
	⑩	学習形態、教室環境	a) 教室が整理整頓され、前面には必要最小限の視覚刺激となっているか。 b) ペア学習、グループ学習などねらいに応じて様々な学習形態を工夫しているか。
	⑪	ふり返りと学びの交流	学習の仕方やまとめ方をふり返って交流する時間が設定されお互いの考えを交流できたか。

業改善の指針としている。また、能動的な学習にするためにグループやペアでの学習を意図的に取り入れることで授業における相互の意見交換や協働的な学習を構築しやすくするよう、校区で授業改善をした。

(3) 基礎的学習内容の定着

①家庭学習の日

本中学校区では、以前から毎週水曜日を「家庭学習の日」と位置付けて、小学校、中学校ともに家庭学習の習慣化に取り組んでいる。小学校では、全学年が5校時で下校して、いつもより多めの宿題を行っている。伯仙小学校では自主学習に多く取り組めるよう課題を設定し、内容やまとめ方が工夫されたノートを教室に掲示して、内容やまとめ方の参考となるようにした。中学校では、部活動を行わない日として、各教科の宿題とは別に学年ごとの学習プリントを配布して、翌朝に全学級で回収するなど、生徒の家庭学習の質や内容の改善を図るほか、生活習慣の見直しにもつなげている。

②家庭学習のリーフレット作成

基礎的な学習内容を定着させるためには、復習や発展的な取扱いなどによる取組が必要である。本中学校区では平成24年度に家庭学習の指針とリーフレットを作成して活用を進めてきた。

今年度、内容を全面的に見直し、中学校区の全家庭に改めて配布した「家庭学習のリーフレット」には、小学校低学年から中学校3年生までどのような学習をどれくらいすればよいのかを示した。また、自主的にできる学習内容や学年に応じた学習時間の目安、読書活動やネット機器や電子ゲーム機などメディア機器を使用する上での注意事項も記載した。「家庭学習の日」や「家庭学習のてびき」を、小学校1年生から中学校3年生まで共通的に取り組んだことで、目指す家庭学習を学年が進んでも見通しをもって取り組めるようになった。



6 特別支援教育

(1) 部会の開催

特別支援教育部会は、本年度2回の部会を開き、特別な支援を要する生徒の情報交換や、効果的な支援のあり方について話し合いを持った。また、それぞれの実践の報告を行い、学校での教育活動に生かした。



(2) 校区支援学級交流会

本年度の校区交流会は、7月に伯仙小学校で行った。相手の立場に立って考え、気持ちを伝えたり行動しようとしたりする中でコミュニケーション能力の向上を図り、活動する中で達成感を感じ自己肯定感を高めることや、校区支援学級児童・生徒の交流を図ることをねらいとして、毎年活動を重ねている。小学生は、久しぶりに会う先輩の姿に目標を感じ、中学生は、小学生をリードすることで自分の成長を確認できる大切な場となっている。